

ハチ博士の ミツバチコラム

9



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

春はやっぱり桜

パッと咲いて、パッと散るのが桜。その潔さが日本人の好みにあうということ、春は日本中が花見で賑わいます。その代表格がソメイヨシノですが、オオシマザクラとエドヒガンの雑種が起源とされ、江戸時代に江戸駒込の染井村で育成されたのでこの名がついています。従って、江戸時代より前の桜はヤマザクラやオオシマザクラだったわけです。関西地区の雑木林に自生するヤマザクラは、白色の花の開花と同時にえび茶色の若芽が出現する美しい桜で、遠目にも春の景色を演出する花です。私は、あっという間に通り過ぎるソメイヨシノの桜前線の後にも、気高く慎ましく咲き続けるヤマザクラを見るのが好きです。

桜は一般に蜜源植物として有用で、セイヨウミツバチが集めた桜の蜜も市販されている

て、人気が高いと聞いています。私の大学の近辺では主にニホンミツバチが生息しているのですが、ヤマザクラにはよく訪花しているのに対して、ソメイヨシノには訪花していません。桜の時期は至る所に多様な花々が咲き、訪花の選択権はミツバチ側にあるわけで、在来種のニホンミツバチが好きで選ぶのはやはり在来種の子孫でしょうか。ミツバチがどのように訪花する相手を選択するのかや、定花性（同じ花を連続して訪問する性質）の研究も面白いテーマだと思えます。



イラスト おおくぼひとみさん